

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-181587

(P2017-181587A)

(43) 公開日 平成29年10月5日(2017.10.5)

|                               |             |             |
|-------------------------------|-------------|-------------|
| (51) Int.Cl.                  | F I         | テーマコード (参考) |
| <b>G09F 3/00 (2006.01)</b>    | G09F 3/00 D | 3E075       |
| <b>G09F 3/10 (2006.01)</b>    | G09F 3/10 B |             |
| <b>G09F 3/02 (2006.01)</b>    | G09F 3/10 H |             |
| <b>B31D 1/02 (2006.01)</b>    | G09F 3/02 P |             |
|                               | B31D 1/02 A |             |
| 審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 15 頁) |             |             |

(21) 出願番号 特願2016-64431 (P2016-64431)  
 (22) 出願日 平成28年3月28日 (2016. 3. 28)

(71) 出願人 313004403  
 株式会社フジシール  
 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目1番9号  
 (74) 代理人 110001748  
 特許業務法人まこと国際特許事務所  
 (72) 発明者 富田 利彦  
 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番9号  
 株式会社フジタック内  
 (72) 発明者 永野 正人  
 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番9号  
 株式会社フジタック内  
 Fターム(参考) 3E075 AA09 BA83 DE09 GA05

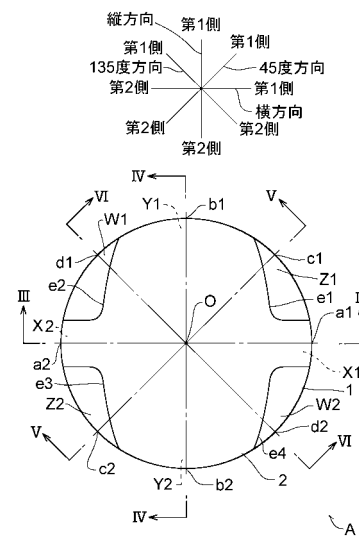
(54) 【発明の名称】 キャンペーンラベル及びラベル連続体

## (57) 【要約】

【課題】 綺麗に被着体に貼り付けることができ、被着体に貼り付けた後に縁部が浮き上がり難いキャンペーンラベルを提供する。

【解決手段】 本発明のキャンペーンラベルAは、裏面に粘着剤層が積層された第1基材1と、前記第1基材1の表面に剥離可能に積層された第2基材2と、を有し、前記第2基材2が、前記第1基材1の横方向第1側の縁部X1、及び、第1基材1の横方向反対側である第2側の縁部X2にまで延在されており、前記第1基材1の横方向に対する45度方向第1側の縁部Z1、第1基材1の前記45度方向反対側である第2側の縁部Z2、第1基材1の横方向に対する135度方向第1側の縁部W1、及び、第1基材1の前記135度方向反対側である第2側の縁部W2において、第2基材2が積層されていない。

【選択図】 図1



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

裏面に粘着剤層が積層された第 1 基材と、前記第 1 基材の表面に剥離可能に積層された第 2 基材と、を有し、

前記第 2 基材が、前記第 1 基材の横方向第 1 側の縁部、及び、第 1 基材の横方向反対側である第 2 側の縁部にまで延在されており、

前記第 1 基材の横方向に対する 45 度方向第 1 側の縁部、第 1 基材の前記 45 度方向反対側である第 2 側の縁部、第 1 基材の横方向に対する 135 度方向第 1 側の縁部、及び、第 1 基材の前記 135 度方向反対側である第 2 側の縁部において、第 2 基材が積層されていない、キャンペーンラベル。

10

**【請求項 2】**

前記第 2 基材が、さらに、前記第 1 基材の縦方向第 1 側の縁部、及び、第 1 基材の縦方向反対側である第 2 側の縁部の少なくとも何れか一方の縁部にまで延在されている、請求項 1 に記載のキャンペーンラベル。

**【請求項 3】**

請求項 1 または 2 に記載のキャンペーンラベルと、離型面を有する帯状のセパレーターと、を有し、

前記第 1 基材の横方向を前記セパレーターの長手方向として、前記セパレーターの離型面に前記キャンペーンラベルの第 1 基材の裏面が剥離可能に貼付されている、ラベル連続体。

20

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、飲料容器などに貼付され、くじや景品等の応募券などとして使用されるキャンペーンラベルなどに関する。

**【背景技術】****【0002】**

従来、飲料容器、食品容器などの各種の容器に、商品の販売促進のため、くじや景品等の応募券などとして使用されるキャンペーンラベルが利用されている。

代表的には、1 層構造のキャンペーンラベルと 2 層構造のキャンペーンラベルが知られている。

30

1 層構造のキャンペーンラベルは、例えば、円形状や矩形状に形成されたラベル基材に、その表面から視認できないように籤や景品応募券などに関するキャンペーン表示が施され、前記ラベル基材の裏面側に、被着体に貼付するための粘着剤層が設けられている。

2 層構造のキャンペーンラベルは、第 1 ラベル基材の表面に第 2 ラベル基材が剥離可能に積層され、その第 1 ラベル基材又は第 2 ラベル基材に、第 2 ラベル基材の表面から視認できないようにキャンペーン表示が施され、前記第 1 ラベル基材の裏面側に、被着体に貼付するための粘着剤層が設けられている（例えば、特許文献 1）。かかる 2 層構造のキャンペーンラベルは、第 1 ラベル基材と同形同大の第 2 ラベル基材が、第 1 ラベル基材の表面に剥離可能に接着されている。

40

**【0003】**

しかしながら、前記 2 層構造のキャンペーンラベルは、2 枚のラベル基材の積層体からなるので、剛性が大きく（柔軟性が小さく）、被着体に貼り付けた後、その縁部が経時的に被着体から浮き上がるおそれがある。特に、被着体の被着面が凹凸状である場合には、貼付後にキャンペーンラベルの縁部が浮き上がり易い。

この点、比較的厚みの小さいラベル基材を用いることによって、キャンペーンラベルの剛性を低くできる。しかしながら、剛性の小さいキャンペーンラベルは、セパレーターから剥離し難く、また、キャンペーンラベルを被着体に貼り付ける際にラベルの縁部に皺が生じるおそれがある。

**【先行技術文献】**

50

## 【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2006-058767号公報

## 【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明の目的は、綺麗に被着体に貼り付けることができ、被着体に貼り付けた後に縁部が浮き上がり難いキャンペーンラベル及びラベル連続体を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

10

本発明のキャンペーンラベルは、裏面に粘着剤層が積層された第1基材と、前記第1基材の表面に剥離可能に積層された第2基材と、を有し、前記第2基材が、前記第1基材の横方向第1側の縁部、及び、第1基材の横方向反対側である第2側の縁部にまで延在されており、前記第1基材の横方向に対する45度方向第1側の縁部、第1基材の前記45度方向反対側である第2側の縁部、第1基材の横方向に対する135度方向第1側の縁部、及び、第1基材の前記135度方向反対側である第2側の縁部において、第2基材が積層されていない。

【0007】

本発明の好ましいキャンペーンラベルは、前記第2基材が、さらに、前記第1基材の縦方向第1側の縁部、及び、第1基材の縦方向反対側である第2側の縁部の少なくとも何れか一方の縁部にまで延在されている。

20

【0008】

本発明の別の局面によれば、ラベル連続体を提供する。

このラベル連続体は、上記キャンペーンラベルと、離型面を有する帯状のセパレーターと、を有し、前記第1基材の横方向を前記セパレーターの長手方向として、前記セパレーターの離型面に前記キャンペーンラベルの第1基材の裏面が剥離可能に貼付されている。

【発明の効果】

【0009】

本発明のキャンペーンラベルは、被着体に貼り付けた後に縁部が浮き上がり難く、長期間安定的に被着体に貼り付けられた状態を維持できる。

30

また、本発明のキャンペーンラベルは、セパレーターから容易に剥がすことができ、剥がした後は、被着体に綺麗に貼り付けることができる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】第1実施形態に係るキャンペーンラベルを表面側から見た平面図。仮想直線を一点鎖線で示している。

【図2】同キャンペーンラベルを裏面側から見た平面図。

【図3】図1のIII-III線断面図。

【図4】図1のIV-IV線断面図。

【図5】図1のV-V線断面図。

40

【図6】図1のVI-VI線断面図。

【図7】第1実施形態に係るラベル連続体の側面図。

【図8】同ラベル連続体を表面側から見た平面図。

【図9】ラベル連続体の製造工程を示す図であって、(a)は、セパレーター上に第1基材原反及び第2基材原反を積層した帯状積層体の側面図、(b)は、その帯状積層体に第1切込み線を形成した後の平面図、(c)は、その帯状積層体から第2基材原反の一部を除去する際の側面図を示す。

【図10】ラベル連続体の製造工程を示す図であって、(a)は、帯状積層体の第1基材原反に第2切込み線を形成した後の平面図、(b)は、その帯状積層体から第1基材原反の一部を除去する際の側面図を示す。

50

【図 1 1】ラベル連続体からキャンペーンラベルを剥離する工程を示す斜視図。

【図 1 2】キャンペーンラベルが貼付された容器の正面図。

【図 1 3】同容器を上側から見た上面図。

【図 1 4】第 2 実施形態に係るキャンペーンラベルを表面側から見た平面図。

【図 1 5】図 1 4 の X V - X V 線断面図。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明について、図面を参照しつつ説明する。

本明細書において、横方向は、ラベルの面内の 1 つの方向を指し、縦方向は、前記面内において前記横方向と直交する方向を指し、横方向に対する 45 度方向は、前記面内において前記横方向と 45 度に交わる方向を指し、横方向に対する 135 度方向は、前記面内において前記横方向と 135 度に交わる方向（換言すると、前記 45 度方向と直交する方向）を指す。また、平面視は、表面に対して鉛直方向から対象物を見ることをいう。「PPP ~ QQQ」という記載は、「PPP 以上 QQQ 以下」を意味する。

各図における構成要素の寸法などは、実際のものと異なっていることに留意されたい。

【0012】

[第 1 実施形態]

<キャンペーンラベル>

図 1 乃至図 6 において、本発明のキャンペーンラベル A は、第 1 基材 1 と、第 1 基材 1 の表面に剥離可能に積層された第 2 基材 2 と、を有する。

第 2 基材 2 は、第 1 基材 1 の表面全体に積層されておらず、第 1 基材 1 の周囲の縁部において、第 2 基材 2 が積層された部分と第 2 基材 2 が積層されていない部分とが存在する。

キャンペーンラベル A は、第 2 基材 2 が第 1 基材 1 に積層された部分において、2 枚の基材からなる 2 層構造を有し、第 2 基材 2 が積層されていない縁部において、1 枚の基材（第 1 基材 1）からなる 1 層構造を有する。

以下、第 1 基材 1 の表面に第 2 基材 2 が積層され且つ 2 枚の基材からなる部分を「2 層部分」といい、第 1 基材 1 の表面に第 2 基材 2 が積層されておらず且つ 1 枚の基材からなる部分を「1 層部分」という場合がある。

【0013】

第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 は、それぞれ柔軟なシート材（シート材は、一般にフィルムと呼ばれるものも含む）から形成されている。

第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 の材質は特に限定されず、それぞれ独立して、例えば、普通紙、コート紙などの紙；ポリエステル系合成紙、ポリオレフィン系合成紙などの合成紙；ポリエステル系フィルム、ポリオレフィン系フィルム、ポリスチレン系フィルムなどの合成樹脂フィルム；ポリエステル系発泡フィルムなどの発泡樹脂フィルム；などのシート材を用いることができる。また、第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 は、それぞれ独立して、異種若しくは同種のシート材（例えば前記のような紙など）を積層接着して一体化した積層体を用いてもよい。第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 は、互いに同種のシート材から形成されていてもよく、或いは、それぞれ異なるシート材から形成されていてもよい。例えば、第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 のそれぞれが、ポリエチレンテレフタレートフィルムなどの合成樹脂フィルムから形成される。或いは、第 1 基材 1 が、ポリエチレンテレフタレートフィルムなどの合成樹脂フィルムから形成され、第 2 基材 2 が、ポリエチレンテレフタレート発泡樹脂などの発泡樹脂フィルム又はポリプロピレンなどの合成紙から形成される。

【0014】

第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 は、それぞれ独立して、透明なシート材又は不透明なシート材のいずれを用いてもよい。前記透明なシート材の全光線透過率は、例えば、70% 以上であり、好ましくは 80% 以上であり、より好ましくは 90% 以上である。前記全光線透過率は、JIS K 7361（プラスチック - 透明材料の全光線透過率の試験方法）に準拠した測定法によって測定される値をいう。第 2 基材 2 として透明なシート材を用いた

場合には、後述するキャンペーン表示を第2基材2の表面側から視認できないように、そのキャンペーン表示を隠蔽する隠蔽層が第2基材2に設けられる。隠蔽層としては、代表的には、白色インキや銀色インキなどの隠蔽効果を有する印刷層が挙げられる。

なお、紙、発泡樹脂フィルム及び合成紙は、一般的に、不透明なシート材であるので、このようなシート材を第2基材2として用いる場合には、前記隠蔽層は必ずしも必要ではない。

#### 【0015】

第1基材1及び第2基材2の厚みは、特に限定されない。第1基材1と第2基材2は、その厚みが同じでもよく、いずれか一方が大きくてもよい。

1層部分の柔軟性が比較的大きく且つ2層部分の剛性が比較的大きくなることから、第1基材1の厚みは、第2基材2の厚みよりも小さいことが好ましい。この好ましい場合において、第1基材1の厚みと第2基材2の厚みの差の絶対値は、例えば、零を越え70 $\mu$ m以下であり、好ましくは10 $\mu$ m～50 $\mu$ mであり、より好ましくは15 $\mu$ m～40 $\mu$ mである。また、第1基材1の厚みは、例えば、10 $\mu$ m～50 $\mu$ mであり、好ましくは10 $\mu$ m～30 $\mu$ mであり、より好ましくは10 $\mu$ m～25 $\mu$ mである。また、第2基材2の厚みは、例えば、20 $\mu$ m～100 $\mu$ mであり、好ましくは30 $\mu$ m～70 $\mu$ mであり、より好ましくは35 $\mu$ m～60 $\mu$ mである。

#### 【0016】

第1基材1及び第2基材2には、各種の表示が施されている。前記表示は、通常、印刷によって形成される。

前記表示としては、籤、景品応募券のような懸賞応募資格情報、特定のキャラクター表示などのキャンペーン表示が少なくとも含まれる。キャンペーン表示以外の表示としては、一般的にラベルに施されている慣用デザイン表示が挙げられる。慣用デザイン表示としては、商品に関する絵柄、商標、商品提供者情報などが挙げられる。なお、キャンペーン表示や慣用デザイン表示などの各種の表示及びこの表示を表した印刷層は、図示しない。また、必要に応じて、前記印刷層には、ニスなどを用いて保護層が形成されるが、この保護層も図示しない。

#### 【0017】

キャンペーン表示は、第1基材1及び第2基材2の少なくとも何れか一方に施される。第1基材1にキャンペーン表示が施される場合には、その表示は第1基材1の表面側から視認できるように、2層部分に対応する第1基材1に施される。例えば、第1基材1として透明なシート材を用いた場合には、その第1基材1の裏面又は表面にキャンペーン表示が印刷され、第1基材1として不透明なシート材を用いた場合には、その第1基材1の表面にキャンペーン表示が印刷される。第2基材2にキャンペーン表示が施される場合には、その表示は第2基材2の裏面側から視認できるように施される。例えば、第2基材2として不透明なシート材を用いた場合には、その第2基材2の裏面にキャンペーン表示が印刷され、第2基材2として透明なシート材を用いた場合には、その第2基材2の表面又は裏面にキャンペーン表示が印刷され且つその表示を隠蔽するように第2基材2に隠蔽層が設けられる。

#### 【0018】

前記第1基材1及び第2基材2の少なくとも何れか一方に施されたキャンペーン表示は、第2基材2（或いは、第2基材2が透明である場合には、隠蔽層）によって隠蔽され、第2基材2の表面側から視認できない。そして、第2基材2を第1基材1から剥離したときには、第1基材1の表面及び第2基材2の裏面からキャンペーン表示を視認できるようになる。

なお、前記慣用デザイン表示は、第1基材1及び第2基材2の何れか一方に施されていてもよく、双方に施されていてもよい。第1基材1に慣用デザイン表示が施される場合には、その表示は第1基材1の少なくとも表面側から視認できるように第1基材1に施される。第2基材2に慣用デザイン表示が施される場合には、その表示は第2基材2の表面側及び裏面側の少なくとも一方側から視認できるように第2基材2に施される。

## 【0019】

第1基材1の平面視形状は、特に限定されず、例えば、平面視略円形状、略楕円形状などの全周に亘って曲線を有する形状；略矩形状、略三角形状、略六角形状などの略多角形状；これらを組み合わせた形状；などが挙げられる。矩形状は、長方形や正方形を含む。ここで、本明細書において、形状の「略」は、本発明の属する技術分野において許容される形状を意味する。例えば、略円形状及び略楕円形状の「略」は、円弧の一部が膨らむ又は窪んでいる形状、円弧の一部が僅かに直線又は斜線とされた形状などが含まれる。また、略矩形状、略三角形状、略六角形状などの略多角形状の「略」は、角部が面取りされている形状、辺の一部が僅かに膨らむ又は窪んでいる形状、辺が若干湾曲している形状などが含まれる。

10

## 【0020】

第1基材1は、その横方向に対する45度方向第1側の縁部Z1、45度方向反対側である第2側の縁部Z2、その横方向に対する135度方向第1側の縁部W1、及び、135度方向反対側である第2側の縁部W2において面取りされており、好ましくはそれらの縁部Z1、Z2、W1、W2において曲線を有する形状に形成されており、より好ましくは平面視略円形状や略楕円形状などの全周に亘って曲線を有する形状に形成される。図示例では、第1基材1は、平面視略円形状に形成されている。

第1基材1の大きさは、特に限定されず、被着体に合わせて適宜設定できる。例えば、第1基材1は、 $60\text{ mm}^2 \sim 1300\text{ mm}^2$ （平面視略円形状において、直径 $10\text{ mm} \sim 40\text{ mm}$ 程度、好ましくは直径 $15\text{ mm} \sim 30\text{ mm}$ 程度）の大きさに形成される。

20

## 【0021】

第1基材1の裏面には、被着体に貼り付けるための粘着剤層31が積層されている。以下、被着体に貼り付けるために第1基材1の裏面に設けられる粘着剤層を「第1粘着剤層31」という。第1粘着剤層31は、第1基材1の裏面に、感圧型粘着剤、感熱性粘着剤などの粘着剤を設けることによって形成される。前記感圧型粘着剤は、室温で粘着力を有し且つその粘着力が長期間持続している粘着剤であり、従来公知のタックラベルで広く使用されているものである。感熱型粘着剤は、室温で粘着性を示さず、加熱することにより粘着力を発揮し且つその粘着力が長期間持続する粘着剤である。粘着剤は、透明、半透明又は非透明の何れでもよい。

第1粘着剤層31は、第1基材1の裏面全体に亘って設けられていればよく、例えば、図示のように粘着剤が面方向に連続して層を成している構成の他、第1基材1の裏面の粘着剤が無数の小さなドット状を成して密に点在されている構成でもよい。

30

第1基材1の裏面に上記各種の表示を表した印刷層が設けられる場合には、第1粘着剤層31は、その印刷層の裏面に設けられる。換言すると、第1粘着剤層31は、第1基材1の最裏面に設けられる。

第1粘着剤層31の厚みは、特に限定されないが、例えば、 $10\text{ }\mu\text{ m} \sim 30\text{ }\mu\text{ m}$ である。

## 【0022】

一方、第1基材1の表面には、剥離層33が積層されている。剥離層33は、第1基材1の表面に、シリコンなどの剥離剤を塗布することによって形成される。剥離層33は、図示例のように、剥離剤が面方向に連続して層を成している構成が好ましい。なお、第1基材1の表面に、上記各種の表示を表した印刷層が設けられる場合には、剥離層33は、印刷層の表面に設けられる。換言すると、剥離層33は、第1基材1の最表面に設けられる。

40

剥離層33の厚みは、特に限定されないが、例えば、 $1\text{ }\mu\text{ m} \sim 10\text{ }\mu\text{ m}$ である。

## 【0023】

第2基材2は、第1基材1の表面に積層されている。第2基材2の平面視における大きさは、第1基材1の平面視における大きさよりも小さい。前記第2基材2は、第1基材1の表面全体に積層されているわけではなく、第1基材1の縁部において、1層部分と2層部分が第1基材1の平面視周方向において交互に存在する。

50

具体的には、第 2 基材 2 は、前記第 1 基材 1 の横方向第 1 側の縁部 X 1、及び、第 1 基材 1 の横方向反対側である第 2 側の縁部 X 2 にまで延在されており、さらに、第 1 基材 1 の縦方向第 1 側の縁部 Y 1、及び、第 1 基材 1 の縦方向反対側である第 2 側の縁部 Y 2 にまで延在されている。

【0024】

他方、第 2 基材 2 は、前記第 1 基材 1 の横方向に対する 45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、第 1 基材 1 の前記 45 度方向反対側である第 2 側の縁部 Z 2、第 1 基材 1 の横方向に対する 135 度方向第 1 側の縁部 W 1、及び、第 1 基材 1 の前記 135 度方向反対側である第 2 側の縁部 W 2 において積層されていない。以下、横方向に対する 45 度方向及び横方向に対する 135 度方向を、単に「45 度方向」及び「135 度方向」という。

10

換言すると、第 2 基材 2 は、第 1 基材 1 の表面のうち、45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2、135 度方向第 1 側の縁部 W 1 及び 135 度方向第 2 側の縁部 W 2 を除いて、積層されている。

【0025】

ここで、前記横方向第 1 側の縁部 X 1 は、図 1 に示すように、第 1 基材 1 の重心 O を通る 1 つの仮想直線（横方向の仮想直線）が交差する第 1 基材 1 の 2 つの縁 a 1、a 2 のうち、一方側の縁 a 1 を含む部分であり、横方向第 2 側の縁部 X 2 は、反対側の縁 a 2 を含む部分である。

前記縦方向第 1 側の縁部 Y 1 は、第 1 基材 1 の重心 O を通り且つ前記横方向の仮想直線と直交するもう 1 つの仮想直線（縦方向の仮想直線）が交差する第 1 基材 1 の 2 つの縁 b 1、b 2 のうち、一方側の縁 b 1 を含む部分であり、縦方向第 2 側の縁部 Y 2 は、反対側の縁 b 2 を含む部分である。

20

【0026】

前記 45 度方向第 1 側の縁部 Z 1 は、第 1 基材 1 の重心 O を通り且つ前記横方向の仮想直線と 45 度を成す他の 1 つの仮想直線（45 度方向の仮想直線）が交差する第 1 基材 1 の 2 つの縁 c 1、c 2 のうち、一方側の縁 c 1 を含む部分であり、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2 は、反対側の縁 c 2 を含む部分である。

前記 135 度方向第 1 側の縁部 W 1 は、第 1 基材 1 の重心 O を通り且つ前記横方向の仮想直線と 135 度を成す他の 1 つの仮想直線（135 度方向の仮想直線）が交差する第 1 基材 1 の 2 つの縁 d 1、d 2 のうち、一方側の縁 d 1 を含む部分であり、135 度方向第 2 側の縁部 W 2 は、反対側の縁 d 2 を含む部分である。

30

前記それぞれの仮想直線が交差する、第 1 基材 1 の縁 a 1 乃至 d 2 は、概念上、それぞれ点であり、それぞれの縁を含む部分は、概念上、その縁（点）を必ず含み、その縁を含んで第 1 基材 1 の表面に拡がる部分的な領域である。

前記横方向第 1 側の縁部 X 1、横方向第 2 側の縁部 X 2、縦方向第 1 側の縁部 Y 1、縦方向第 2 側の縁部 Y 2、45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2、135 度方向第 1 側の縁部 W 1、及び、135 度方向第 2 側の縁部 W 2 は、互いに交わることがなく、概念上それぞれ独立している。

【0027】

図示例では、第 2 基材 2 には、第 1 基材 1 の 45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2、135 度方向第 1 側の縁部 W 1、及び、135 度方向第 2 側の縁部 W 2 において、第 1 基材 1 の縁よりも内側に凹んだ 4 つの縁 e 1、e 2、e 3、e 4 が形成されている。この第 2 基材 2 の 4 つの縁 e 1、e 2、e 3、e 4 は、平面視略 L 字状に形成されている。従って、図示例では、第 1 基材 1 の 45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2、135 度方向第 1 側の縁部 W 1、及び、135 度方向第 2 側の縁部 W 2 が、いずれも 1 層部分であり、これらの縁部 Z 1、Z 2、W 1、W 2 は、平面視略三角形状とされている。

40

ここで、キャンペーンラベル A の 2 層部分の横方向長さは、第 1 基材 1 の重心 O を通る 1 つの仮想直線が交差する 2 つの縁 a 1、a 2 の間において最大とされている。また、キャンペーンラベル A の 2 層部分の横方向長さは、横方向の仮想直線と直交するもう 1 つの

50

仮想直線が交差する縁 b 1 又は縁 b 2 に向かうに従って徐々に小さくなっている。

#### 【0028】

第2基材2の裏面には、第1基材1に貼り付けるための粘着剤層32が積層されている。以下、第2基材2を第1基材1に貼り付けるための粘着剤層を「第2粘着剤層32」という。第2粘着剤層32は、第2基材2の裏面に、感圧型粘着剤、感熱性粘着剤などの粘着剤を設けることによって形成される。第2粘着剤層32を形成する粘着剤は、透明、半透明又は非透明の何れでもよいが、第2基材2にキャンペーン表示が施される場合には、その表示を第2基材2の裏面側から視認できるようにするため、第2粘着剤層32は、透明又は半透明なものが用いられる。

第2粘着剤層32は、第2基材2の裏面全体に亘って設けられていればよく、例えば、図示のように粘着剤が面方向に連続して層を成している構成の他、第2基材2の裏面の粘着剤が無数の小さなドット状を成して密に点在されている構成でもよい。

第2基材2の裏面に上記各種の表示を表した印刷層が設けられる場合には、第2粘着剤層32は、その印刷層の裏面に設けられる。換言すると、第2粘着剤層32は、第2基材2の最裏面に設けられる。

第2粘着剤層32の厚みは、特に限定されないが、例えば、10 $\mu$ m～30 $\mu$ mである。

第1基材1の表面には、剥離層33が設けられているので、第2粘着剤層32を介して剥離層33上に積層された第2基材2は、第1基材1に対して剥離可能に接着されている。なお、剥離可能とは、人力で引き剥がすことができることをいう。

#### 【0029】

##### <ラベル連続体>

上記キャンペーンラベルAは、1枚ずつの形態で提供されてもよいが、通常、その複数枚をセパレーター5上に貼付したラベル連続体Bの形態で提供される。

図7及び図8は、ラベル連続体Bを示す。

ラベル連続体Bは、上記キャンペーンラベルAと、離型面を有するセパレーター5と、を有する。

セパレーター5は、平面視帯状（細長い長方形状）である。セパレーター5の表面は、離型面とされている。離型面は、セパレーター5を構成する基材の表面に積層された剥離層の表面から構成される。剥離層（図示せず）は、上記キャンペーンラベルAで例示したような剥離剤をセパレーター基材の表面に塗布することによって形成される。セパレーター基材は、柔軟なシート材から形成され、例えば、上述のような紙、合成紙、合成樹脂フィルムなどを用いることができる。

#### 【0030】

キャンペーンラベルAは、第1粘着剤層31（図7及び図8において不図示）の裏面を剥離面に剥離可能に貼付されている。キャンペーンラベルAは、その複数枚がセパレーター5の長手方向に間隔を開けて並んで貼付されている。なお、間隔を開けて貼付される場合に限られず、隣り合うキャンペーンラベルAの縁同士が接するようにして、複数のキャンペーンラベルAが貼付されていてもよい（図示せず）。

また、図示例では、複数のキャンペーンラベルAは、セパレーター5の短手方向において1列で長手方向に並んで貼付されているが、セパレーター5の短手方向において2例以上で且つそれぞれの列で長手方向に並んで貼付されていてもよい（図示せず）。

キャンペーンラベルAの向きは、特に限定されないが、横方向又は縦方向をセパレーター5の長手方向と略平行にして貼付することが好ましい。図示例では、第1基材1の横方向をセパレーター5の長手方向と略平行にして、セパレーター5の離型面に複数のキャンペーンラベルAが並んで貼付されている。

なお、図7に示すように、ラベル連続体Bは、通常、ロール状に巻き取った状態で保管・運搬に供され、使用時に、その長手方向に引き出される。

#### 【0031】

##### <キャンペーンラベル及びラベル連続体の製法>

10

20

30

40

50

上記キャンペーンラベル A 及びラベル連続体 B は、例えば、次のようにして製造できる。

図 9 ( a ) に示すように、セパレーター 5 の離型面上に、第 1 基材原反 1 1 と第 2 基材原反 2 1 を積層した、帯状積層体 6 を準備する。なお、印刷層、粘着剤層、剥離層等は、図示しない。

第 1 基材原反 1 1 及び第 2 基材原反 2 1 は、セパレーター 5 と略同じ平面視帯状に形成されている。第 1 基材原反 1 1 の裏面には、上述の第 1 粘着剤層 3 1 が設けられ、第 1 基材原反 1 1 の表面には、剥離層 3 3 が設けられている。第 2 基材原反 2 1 の裏面には、上述の第 2 粘着剤層 3 2 が設けられている。従って、第 1 基材原反 1 1 は、セパレーター 5 上に剥離可能に貼付されており、第 2 基材原反 2 1 は、第 1 基材原反 1 1 上に剥離可能に貼付されている。

また、第 1 基材原反 1 1 及び第 2 基材原反 2 1 は、キャンペーンラベル A の第 1 基材 1 及び第 2 基材 2 の形成材料である。第 1 基材原反 1 1 及び第 2 基材原反 2 1 には、1 つのキャンペーンラベル A に対応した各種の表示が、その長手方向に所定間隔を開けて繰り返し印刷されている。

#### 【 0 0 3 2 】

次に、同図 ( b ) に示すように、前記帯状積層体 6 のうち、第 2 基材原反 2 1 のみに第 1 切込み線 7 1 を形成する。この第 1 切込み線 7 1 は、第 2 基材原反 2 1 の表裏面に貫通する切り目であり、その第 1 切込み線 7 1 において第 2 基材原反 2 1 は分断される。第 1 切込み線 7 1 は、長手方向に所定間隔を開けて複数形成される。

各第 1 切込み線 7 1 は、上記第 2 基材 2 の 4 つの縁 e 1 , e 2 , e 3 , e 4 と同じ形状 ( 例えば、略 L 字状 ) の 4 つの縁取り切り目 7 1 1 と、その縁取り切り目 7 1 1 の外端部から外側に延びる延長切り目 7 1 2 と、を有する。第 1 切込み線 7 1 は、隣り合う延長切り目 7 1 2 の外端部同士が連結されて形成されることによって、閉鎖環状を成している。

#### 【 0 0 3 3 】

同図 ( c ) に示すように、前記第 1 切込み線 7 1 で囲われた領域 2 8 ( 以下、第 2 基材原反 2 1 のうち、切込み線で囲われた領域を「内側領域 2 8」という ) を除いて、第 2 基材原反 2 1 を第 1 基材原反 1 1 から剥離し、除去する。なお、同図 ( b ) において、第 2 基材原反 2 1 のうち除去する領域に、網掛けを付している。

#### 【 0 0 3 4 】

次に、図 1 0 ( a ) に示すように、第 1 基材原反 1 1 上に残存した内側領域 2 8 と、第 1 基材原反 1 1 とに、上記第 1 基材 1 の周縁形状と同じ形状 ( 例えば、略円形状 ) の第 2 切込み線 7 2 を形成する。この第 2 切込み線 7 2 は、第 1 切込み線 7 1 の全ての縁取り切り目 7 1 1 の外端部に交差するように形成される。従って、内側領域 2 8 は、延長切り目 7 1 2 と第 2 切込み線 7 2 で囲われた領域 2 9 と、それ以外の領域と、に分割される。

同図 ( a ) において、内側領域 2 8 のうち、延長切り目 7 1 2 と第 2 切込み線 7 2 で囲われた領域 2 9 に網掛けを付している。

#### 【 0 0 3 5 】

最後に、同図 ( b ) に示すように、前記第 2 切込み線 7 2 で囲われた領域を除いて、第 1 基材原反 1 1 をセパレーター 5 から剥離し、除去する。

第 1 基材原反 1 1 のうち除去する領域上には、内側領域 2 8 のうち延長切り目 7 1 2 と第 2 切込み線 7 2 で囲われた領域 2 9 が貼付されているので、その領域 2 9 も第 1 基材原反 1 1 の除去と共に除去される。

このようにして図 8 に示すような、セパレーター 5 上に複数のキャンペーンラベル A が貼付されたラベル連続体 B が得られる。

#### 【 0 0 3 6 】

< キャンペーンラベルの使用 >

上記キャンペーンラベル A は、被着体の被着面に貼り付けて使用される。

被着体は、キャンペーンラベル A を貼り付ける対象となる物をいい、被着面は、キャンペーンラベル A が貼り付けられる面をいう。

10

20

30

40

50

被着体は、特に限定されず、カップ型容器、飲料などが収納されたボトル型容器、化粧品などが収納された容器、調味料や食品などが収納された容器などの各種容器が代表的に例示される。もっとも、被着体は、内容物が収納される容器に限られず、機械部品などの商品そのものであってもよい。

被着体の被着面は、平面状でもよく、角面状でもよく、或いは、曲面状でもよい。また、被着面には、視覚及び触覚で確認できないほどの微細な凹凸を有していてもよく、視覚で確認できないが触覚で確認できるほどの小さな凹凸を有していてもよく、或いは、視覚及び触覚で確認できる大きな凹凸を有していてもよい。

#### 【0037】

キャンペーンラベル A の被着体への貼付は、人力で行ってもよいが、連続的に効率よく貼付することができることから、機械的に行うことが好ましい。

機械的に行う場合、ラベリング装置（ラベルを被着体に貼付する装置）が用いられる。

例えば、本発明のラベル連続体 B をラベリング装置に装填し、前記ラベル連続体 B を長手方向に送り、その途中でラベリング装置のピール部にて、前記ラベル連続体 B のセパレーター 5 をその裏面に対して傾斜するように曲げることにより、セパレーター 5 の表面からキャンペーンラベル A を剥離し、そのキャンペーンラベル A を順次送られてくる被着体に貼付する。

具体的には、図 11 に示すように、ラベル連続体 B の長手方向の第 1 側（キャンペーンラベル A の横方向第 1 側）を先頭にして、ラベル連続体 B を長手方向に搬送する。上記のようにロールに巻かれたラベル連続体 B を引き出し、長手方向の第 1 側を先頭にしてラベリング装置のラインの下流側にラベル連続体 B を搬送する。

#### 【0038】

ラベル連続体 B は、ラベリング装置のピール部 8 に送られる。ピール部 8 は、ラベル連続体 B の搬送途中に配置されている。

ピール部 8 は、例えば、側面視三角形に形成された板状体である。ピール部 8 の表面は、平坦状であり、ピール部 8 の先端部 8 a は、尖っていてもよいが、図示のように弧状に形成されていることが好ましい。

ラベル連続体 B は、そのセパレーター 5 の裏面をピール部 8 の表面に対面させて、ピール部 8 の表面上に沿って搬送され、ピール部 8 の先端部 8 a において、セパレーター 5 のみがピール部 8 の裏面側へと引き取られる。セパレーター 5 は、ピール部 8 の先端部 8 a の角度に従い、セパレーター 5 の裏面に対して傾斜するように曲げられる。

セパレーター 5 がピール部 8 の先端部 8 a において曲げられると、セパレーター 5 上に貼付されていたキャンペーンラベル A の縁部がセパレーター 5 から剥離し、さらに、キャンペーンラベル A の全体がセパレーター 5 から剥離する。

特に、キャンペーンラベル A は横方向第 1 側の縁部 X 1 が 2 層部分とされているので、その部分において剛性が大きく、セパレーター 5 がピール部 8 で曲げられた際に、キャンペーンラベル A がセパレーター 5 の曲がり追随し難く、キャンペーンラベル A が確実にセパレーター 5 から剥離するようになる。

なお、キャンペーンラベル A を剥離した後のセパレーター 5 は、回収ロール（図示せず）に巻き取られる。

#### 【0039】

剥離されたキャンペーンラベル A を、第 1 粘着剤層 31 を介して被着体の被着面に貼り付けることにより、図 12 及び図 13 に示すような包装体 C が得られる。なお、キャンペーンラベル A は、横方向第 1 側の縁部 X 1 などの 2 層部分が、最初に被着体に接触するようにして貼付することが好ましい。

この包装体 C は、胴部 91 及びキャップ部 92 を有する容器 9（被着体）と、その容器 9 の胴部 91 に第 1 粘着剤層 31 を介して貼付されたキャンペーンラベル A と、を有する。その胴部 91 は、曲面を有し、キャンペーンラベル A は、その曲面に貼付されている。

キャンペーンラベル A の曲面に対する貼付向きは、特に限定されない。例えば、図示例のように、キャンペーンラベル A の横方向が曲面の周方向となるように貼付してもよく、

10

20

30

40

50

特に図示しないが、キャンペーンラベル A の縦方向、45 度方向又は 135 度方向が曲面の周方向となるように貼付してもよい。

【0040】

本発明のキャンペーンラベル A は、第 1 基材 1 の 45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2、135 度方向第 1 側の縁部 W 1、及び、135 度方向第 2 側の縁部 W 2 が、1 層部分とされ、それらの縁部において剛性が小さく柔らかいので、被着体に貼り付けた後、経時的にラベルの縁から剥がれることを効果的に防止できる。

また、キャンペーンラベル A は、横方向第 1 側の縁部 X 1 及び横方向第 2 側の縁部 X 2 が 2 層部分とされ、その縁部において剛性が大きいので、上述のように、セパレーター 5 から確実に剥離でき、また、被着体にキャンペーンラベル A を貼付する際に皺などが発生することを防止でき、被着体に綺麗に貼り付けることができる。

10

【0041】

本発明は、上記第 1 実施形態に限られず、適宜設計変更することができる。以下、本発明の他の実施形態を説明するが、上記第 1 実施形態と同様の構成については、説明を省略し、用語及び符号を援用する場合がある。

【0042】

[第 2 実施形態]

上記第 1 実施形態では、第 2 基材 2 の全体が第 1 基材 1 に対して剥離可能に接着されているが、第 2 基材 2 の一部分において第 1 基材 1 に対して強く接着されていてもよい。

例えば、図 14 及び図 15 に示すように、第 2 基材 2 が、横方向第 1 側の縁部 X 1 の一部分 27 及び横方向第 2 側の縁部 X 2 の一部分 27 において、第 1 基材 1 に対して強く接着されていてもよい。図 14 において、強く接着された部分 27 を判り易く図示するため、その部分に密な縦線を付加している。

20

【0043】

このように部分的に強く接着する方法としては、図 15 に示すように、剥離層 33 の一部分に無処理部を設けることが挙げられる。無処理部は、剥離層を形成しない部分であり、かかる無処理部において、第 2 粘着剤層 32 が第 1 基材 1 の表面に直接接着するので、その部分 27 において強く接着するようになる。

このように比較的小さな部分 27 において第 2 基材 2 を第 1 基材 1 に対して強く接着することにより、キャンペーンラベル A の保管・運搬中などに、第 2 基材 2 が不用意に捲れることを防止できる。なお、前記強く接着された部分 27 は、比較的小さいので、消費者が、キャンペーン表示を目視するために第 2 基材 2 を捲ることに支障を来すことはない。

30

また、例えば、第 1 基材 1 の縦方向第 1 側の縁部 Y 1 に無処理部を設け、縦方向第 2 側の縁部 Y 2 側から第 2 基材 2 を見開き可能としてもよい。

【0044】

[第 3 実施形態]

上記第 1 実施形態において、第 1 基材 1 の 45 度方向第 1 側の縁部 Z 1、45 度方向第 2 側の縁部 Z 2、135 度方向第 1 側の縁部 W 1、及び、135 度方向第 2 側の縁部 W 2 が、1 層部分とされているが、これ以外に、縦方向第 1 側の縁部 Y 1 も 1 層部分とされていてもよく、或いは、縦方向第 1 側の縁部 Y 1 及び縦方向第 2 側の縁部 Y 2 も 1 層部分とされていてもよい。

40

【0045】

[第 4 実施形態]

上記第 1 実施形態では、第 1 基材 1 の最表面に剥離層を設け且つ第 2 基材 2 の最裏面に第 2 粘着剤層 32 を設けることによって、第 2 基材 2 が第 1 基材 1 に対して剥離可能に積層されているが、例えば、第 1 基材 1 の最表面に第 2 粘着剤層 32 を設け且つ第 2 基材 2 の最裏面に剥離層を設けてもよく、この場合も同様に第 2 基材 2 を剥離可能に積層できる。

【符号の説明】

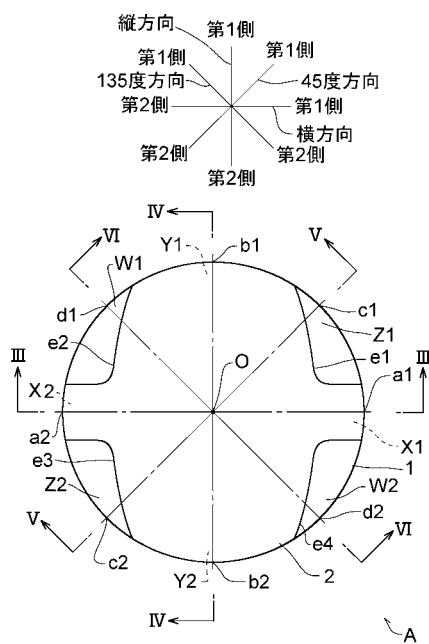
【0046】

50

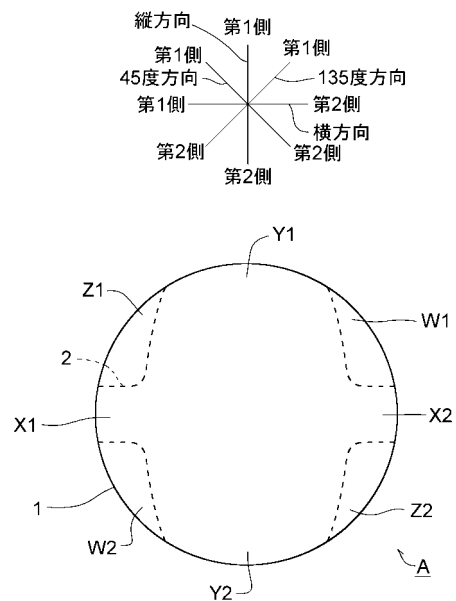
- A キャンペーンラベル
- B ラベル連続体
- 1 第1基材
- 2 第2基材
- X 1 横方向第1側の縁部
- X 2 横方向第2側の縁部
- Y 1 縦方向第1側の縁部
- Y 2 縦方向第2側の縁部
- Z 1 45度方向第1側の縁部
- Z 2 45度方向第2側の縁部
- W 1 135度方向第1側の縁部
- W 2 135度方向第2側の縁部
- 5 セパレーター

10

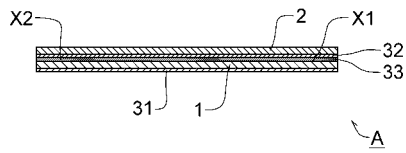
【図1】



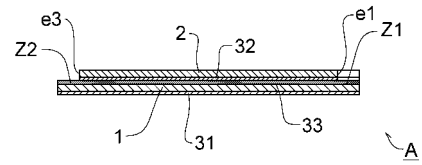
【図2】



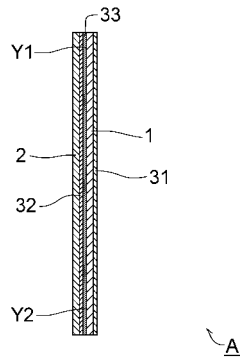
【図 3】



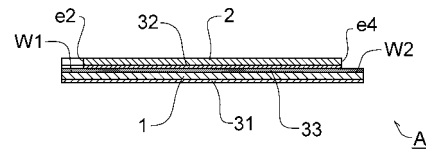
【図 5】



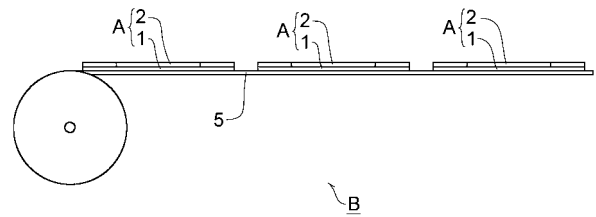
【図 4】



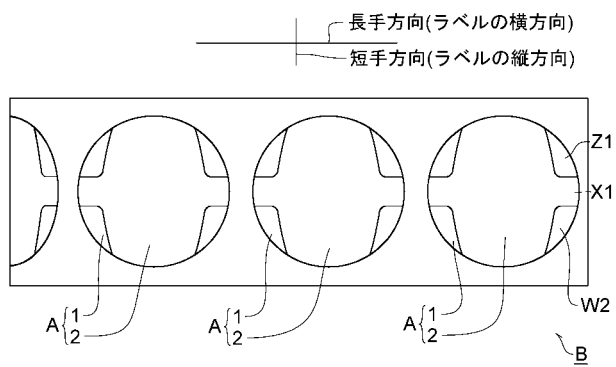
【図 6】



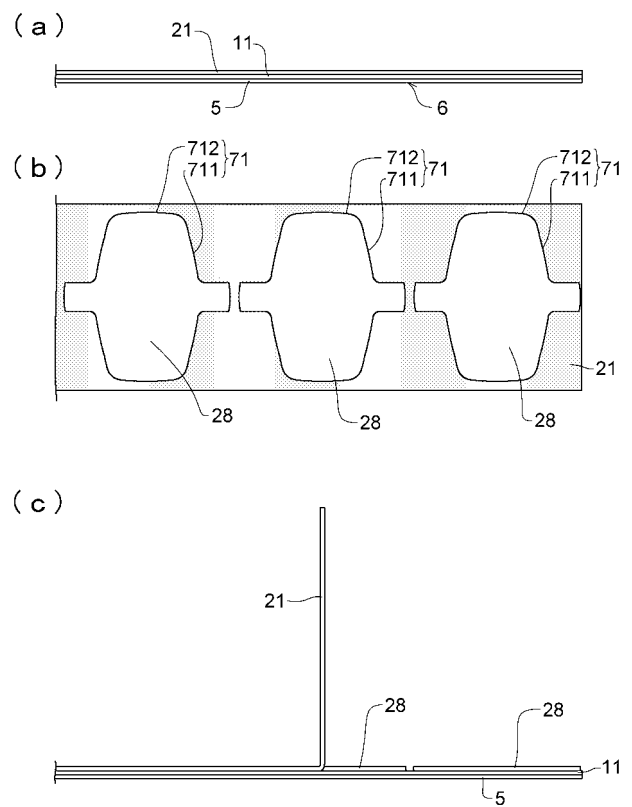
【図 7】



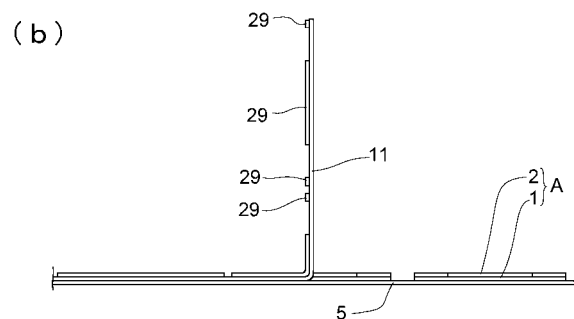
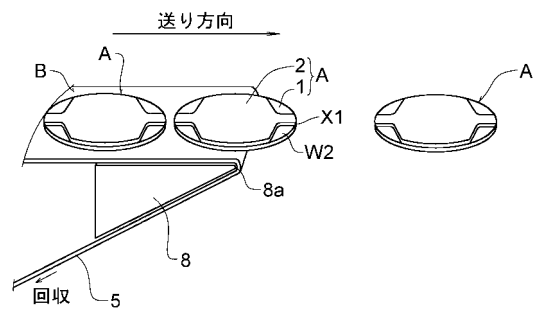
【図 8】



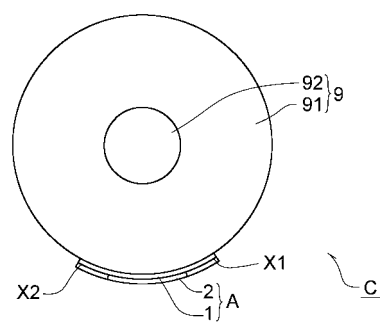
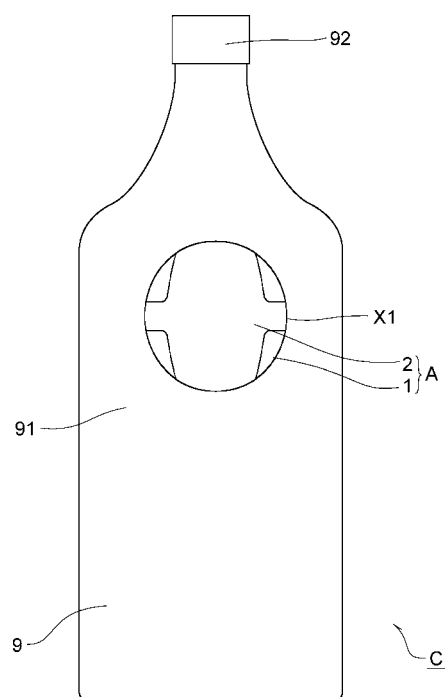
【図 9】



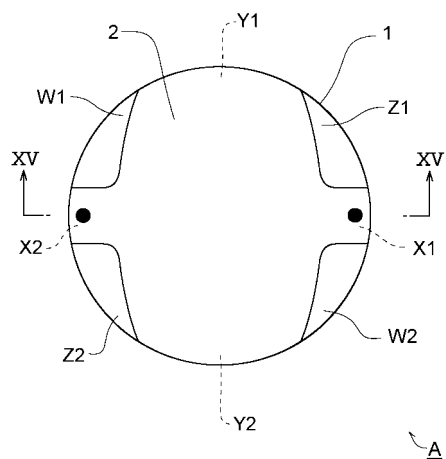
【 図 1 1 】



【 図 1 3 】



【 图 1 4 】



【図 15】

